

千円札に採用された富士山の風景 - 岡田紅陽の有名な写真

日本の千円札の現行のデザインと、1984 年の五千円札のデザインには、森林に覆われた丘に囲まれた湖越しの富士山の姿があしらわれています。これは、高名な写真家、岡田紅陽（1895-1972）が 1935 年に本栖湖を撮影した「湖畔の春」という題名の写真を彫刻したものです。

新潟県に生まれた岡田は、日本の山岳写真における早期の先駆者でした。岡田は「富士子」という女性の名前で呼んでいた富士山が特に気に入っており、富士山とその周囲をカメラで記録することがライフワークになりました。岡田は富士五湖地域に頻繁に訪れ、愛して止まなかった被写体の新しい顔を探し求めて森や丘を散策する姿は地元の人々の間でも有名になり、岡田は彼らの多くと仲良くなりました。

岡田紅陽美術館は、岡田が 21 歳の時に初めて富士山に心を奪われた、富士山近くの忍野村に 2004 年に開設されました。遠くに富士山を望む忍野八海の写真は、最も高い評価を受けている岡田作品の一部です。

岡田の足跡をたどる

岡田の「湖畔の春」の写真により不朽の名声を得た風景は、今日でも見ることができます。この地点は、本栖湖の北西にあり、道路から始まる 1km のハイキングの所要時間は約 30 分です。この登山道は、険しく、急峻な崖を数カ所登る必要がありますが、その見返りとして目にできる富士山の姿は最も美しいもののひとつです。